

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分
感染性胃腸炎検出状況

検出菌 ウイルス	2024年								2025年											
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 ~7日	9月 ~14日	9月 ~21日	9月 ~28日
カンピロバクター	57	50	39	41	50	50	37	36	18	14	38	22	23	36	38	43	9	7	8 (11)	10
病原性大腸菌	79	76	83	70	86	49	46	33	23	107	90	91	71	93	78	97	17	33	15 (17)	13
腸管出血性大腸菌	1	2	1	6	2	0	1	1	0	0	1	0	2	3	3	2	0	0	0	0
サルモネラ	5	8	12	29	13	12	7	6	1	3	8	3	6	11	12	11	3	3	4	0
黄色ブドウ球菌 MSSA	12	21	11	17	24	5	6	4	14	15	6	8	9	16	8	28	3	5	1 (2)	4
黄色ブドウ球菌 MRSA	3	10	8	6	21	12	8	13	9	9	14	13	9	11	5	16	3	3	1	3
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	3	1	5	1	2	0	1	0	3	2	1	1	1	2	2	0	1	1	0
ロタウイルス	0	1	0	0	0	0	0	0	2	8	9	10	1	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	1	0	0	1	0	1	0	0	1	3	4	4	2	1	1	0	0	0	0	0
ノロウイルス	4	0	1	1	1	0	0	0	0	11	37	10	6	2	2	0	1	2	0	0

()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC)
感染症週報 令和7年第39週(9月22日~9月28日)

2. 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	7	結核	7		1	1	1	3		1
三類	2	腸管出血性大腸菌感染症	2				1			1
四類	0	発生なし	0							
五類	72	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1						
		梅毒	6					3	1	2
		百日咳	65	4	21	8		19	5	8

注) 西部 … 大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
東部 … 三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町西部東 … 竹原市、東広島市、大崎上島町
北部 … 三次市、庄原市● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

週報③

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター 広島市感染症週報

令和 7年39週(9月22日～9月28日)

■コメント

1 マイコプラズマ肺炎

定点当たり4.33人の報告があり、増加しています。主な症状は、発熱や全身の倦怠感(だるさ)、頭痛、咳などで、咳は熱が下がった後も長期にわたって(3～4週間)続くのが特徴です。手洗いの励行、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。

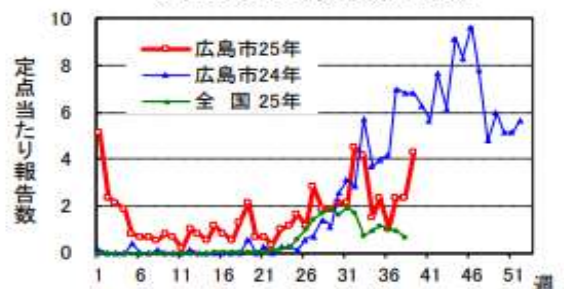
2 流行性角結膜炎

定点当たり3.25人の報告があり、増加しています。アデノウイルスを原因とする急性の結膜炎で、感染力が強く、小児から大人まで幅広い年齢層で見られます。手洗いの励行、タオルの共用を避けるなど、感染予防対策を心がけましょう。

3 インフルエンザ

定点当たり0.43人の報告があり、増加傾向です。また、9月29日に、広島市で今シーズン初めてのインフルエンザ様疾患による学級閉鎖が報告されました。流行開始の目安(定点当たり1.00人)には達していませんが、今後、本格的な流行を迎えることが予想されます。手洗い、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。

マイコプラズマ肺炎の流行状況



流行性角結膜炎の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間(注)	発生記号
ARI	急性呼吸器感染症(ARI)	1972	56.34			小児科	突発性発しん	7	0.32	0.22	
	インフルエンザ	15	0.43	1.01			ヘルパンギーナ	1	0.05	0.79	
	新型コロナウイルス(COVID-19)	179	5.11				流行性耳下腺炎	-	-	0.02	
小児科	RSウイルス感染症	23	1.05	0.28		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	咽頭結膜熱	5	0.23	0.21			流行性角結膜炎	26	3.25	0.38	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	49	2.23	1.01		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	81	3.68	2.19			無菌性髄膜炎	1	0.17	-	
	水痘	3	0.14	0.08			マイコプラズマ肺炎	26	4.33	1.39	
	手足口病	13	0.59	1.63			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	31	1.41	0.01			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減 ↑ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↗ 前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減

微増減 ↘ 前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減

横ばい ⇐ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

急性呼吸器感染症(ARI)定点数(内科・小児科)	35
小児科定点数	22
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	96	80歳代・1人、90歳代・2人
5	梅毒	3	114	20歳代・2人、40歳代・1人
5	百日咳	19	930	10歳未満・11人、10歳代・4人、30歳代・1人、40歳代・1人、70歳代・1人、80歳代・1人